

SDGs 達成の担い手育成 (ESD) 推進事業

担当: 横浜市教育委員会事務局
学校教育部 学校経営支援課

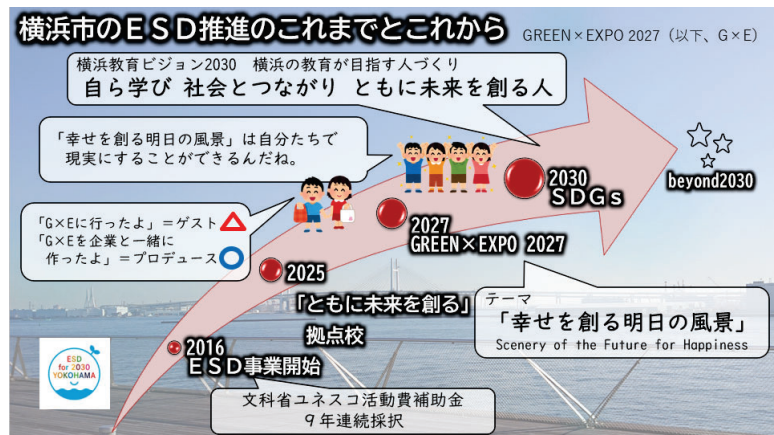
1 SDGs達成の担い手育成 (ESD) とは

「地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身に付けるための教育」です。全てのSDGs達成に大きく関係し、これからの学校教育の根幹になるものです。横浜市では平成28年度から文部科学省の指定を受け、ESDを推進してきました。



令和7(2025)年度からは、GREEN×EXPO 2027 を更なる推進のチャンスと捉え、「ともに未来を創る」拠点校と共に、GREEN×EXPO 2027 を活用した ESD のモデルをつくり、その成果を発信することで、市立学校全校への ESD の拡充を目指します。

※ ESD とは Education for Sustainable Development の略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。



「ともに未来を創る」拠点校一覧 (17 校)

永田台小、幸ヶ谷小、みなとみらい本町小、三保小、旭小、羽沢小、青木小、
中尾小、大門小、上瀬谷小、永野小、鳥が丘小、小机小、
市ヶ尾中、南希望が丘中、小田中、東高校

2 本事業の目標

児童生徒が「持続可能な社会の創り手」になることです。その指標として、横浜市生活・学習意識調査において「学習を通して見いだした地域や社会の課題を自分たちで解決できると思いますか」という設問を設定しています。

横浜市生活・学習意識調査において「学習を通して見いだした地域や社会の課題を自分たちで解決できると思う」と回答した児童生徒の割合

	R4	R5	R6
小学校 4 ～ 6 年生	69.3%	70.4%	74.0%
中学生	62.1%	64.7%	66.0%

3 本事業の内容

総合的な学習の時間や児童会生徒会活動などを通してSDGs達成の担い手育成 (ESD) に積極的に取り組んだり、ESDの視点を用いて学校経営を進めたりしている「ともに未来を創る」拠点校 (17 校) を中心に、教職員の情報交換会や、児童生徒が参加するステークホルダー交流会やオンライン交流会、子どもエコフォーラム、年度末の交流報告会を実施しています。

4 SDGs 達成の担い手育成の取組状況

学校現場で潜在的に行っていたことを、意図的・計画的に取り組む学校が増えてきた結果、小学校、中学校ともに取組状況が 100%になりました。また、学校全体で取り組もうとする「ホールスクール・アプローチ」が広がってきています。

5 SDGs 達成の担い手育成で大切にしていること

- ・SDGsの理念「Think globally, Act locally. No one will be left behind.」
- ・地域・企業・NPOなどの多様なステークホルダーと連携・協働すること
- ・地域・社会に働きかけたり、地域・社会の変容を促したりすること
- ・個人の変容と地域・社会の変容を連動して捉えること
- ・学校全体で取り組むこと (ホールスクール・アプローチ)

